

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1193300058		
法人名	社会福祉法人一寿会		
事業所名	グループホームひがしまつやま寿苑(ユニット1・2)		
所在地	東松山市柏崎628-1		
自己評価作成日	平成22年1月8日	評価結果市町村受理日	平成22年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.fukushi-saitama.or.jp/saitama22/">http://www.fukushi-saitama.or.jp/saitama22/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 埼玉県介護支援専門員協会		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区仲町2-13-8 ほまれ会館3階		
訪問調査日	平成22年1月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>①利用者一人ひとりが、毎日生き生きとした生活が送れるような環境作りと、援助を実施している。</p> <p>②地域との交流を盛んに行っており、地域福祉の担い手となるよう取り組んでいる。</p> <p>③職員の知識向上を図るため、内部研修、外部研修の機会を多く取り入れている。</p> <p>④ヘルパー実習生や学生、ボランティアさんなどの受け入れを積極的に行っており、互いに学ぶ場としている。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>地域の人たちと活発な交流関係ができています。夏祭りには、地域の方が参加したフラダンス、花火大会など行事がたくさんある。秋には職員が手作りしたかかしが、地域の祭りに出展されている。広い敷地には菜園があり、ボランティア・職員・利用者が共同して作っている。グループホームは2階にあり、1階の調理室で専門の業者が調理した食事を、キッチンに保温配膳車で運び、利用者と一緒に盛り付け、温かい食事を楽しんでいる。冬のこの時期、菜園で採れた大根、ブロッコリ、白菜と多種類の野菜が毎日の食卓に上がっている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本とし、事業所独自の理念を作成している。	法人の理念である、「人の喜びをわが喜びとし、わが喜びを心の糧…」を全体会議で共有し、業務の中でそのつど説明している。理念が書かれた額を事務所やリビングに掲示し、いつでも見て心に刻み利用者の支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園との交流や、地域公民館主催のイベントなどにも参加している。又日常的な散歩においても積極的な会話が行われている。	地域の行事に参加したり、ホーム主催の夏祭りには、地域の人達の参加を呼びかけている。家族やボランティアの人達も多く、毎日のように散歩し、地域の人達との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場面などを通じて行っている。又日常の交流においても会話を通じて実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に、ホームでの取り組み、行事の内容、監査の実施状況についてなどの報告を行っている。	運営推進会議は自治会長、民生委員、高齢介護課担当職員、家族の会の代表、事業所のケアマネジャーとで開催している。グループホームでの取り組みや内容についての情報交換を行うなかから、課題や役割の理解を得る努力がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡や、市へ訪問した時などできるだけ密に連携をとるようにしている。	入居者や運営その他について、その都度電話等で相談したり報告して連携を取るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び職員で身体拘束防止の委員会を作り、定期的に活動している。又職員全体会議の中でも理解を深めるための勉強会を実施している。	身体拘束禁止について職員全体で話し合いを実施している。身体拘束しないケアを目指し、家族の意向・利用者の状態等、変化の把握に努めると共に、記録や家族への説明責任の大切さを確認しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して高齢者虐待についての理解を深めるとともに、利用者の変化に気付くよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び介護支援専門員については理解を深めるよう取り組んでいるが、実際に対象となるケースは今のところはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時及び変更があった時は説明するようにしており理解されていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面談の場を多く持ようにしており、意見や要望があるときは、管理者を含め都度対応するようにしている。	家族の面会数が多いので、その都度話し合いを持ち、意見や要望を聞き、できる限り早く対応し解決するように努めている。 また、その内容について、会議の中で話し、運営に反映させる努力がなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を設け、意見交換の他必要な内容については対応するようにしている。	全体会議の中で、管理者や職員の意見・提案を聞き、記録を残すように実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談を実施することによって、職員一人ひとりの向上心につながるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修へ参加すると共に、内部での勉強会も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議や、介護支援専門員連絡会など積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り本人の話しやすい環境の中で、悩みや、不安なことを話していただき解消できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることについての状況や経緯についてしっかり話を聞き、家族のニーズを把握した上で、事業所としてどのような対応ができるか話し合い、安心して利用できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている内容をしっかり聞いて的確なサービスにつながるよう努めている。利用開始時は体験利用などしていただき安心して利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の作業を一緒に行い、共に過ごすようにしている。利用者から学ぶ事も多く、日々いきいきとした生活が送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時などは利用者の様子をできるだけ詳しく伝えながら、コミュニケーションを密に取り入れる事で、ご家族の思いや意向を聴く事ができ、ご本人と一緒に支えていく事ができるようになった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望により外出を進めたり、面会に来られた時は場所を提供し馴染みの関係が継続されるよう努めている。	家族と買い物に外出する人、仕事帰りに立ち寄る家族、毎土曜日に帰宅をする人など様々な家族の支え合いがある。この家族の繋がりを断ち切らないように支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの意見や意向を尊重した上で共同生活が円滑にできるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去したご家族から利用者を紹介していただく事がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活を送る中ではあるが、できる限り一人ひとりの意見や希望を取り入れるよう努めている。	一人ひとりの意向、希望の把握に努めるとともに、入居者の状態に応じて対応ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始する前にできる限り多くの情報(生活歴や生活環境)を聴いて利用者の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズム(起床・食事・睡眠・排泄など)を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、ご本人ご家族の意見を聴いて介護計画書を作成するように努めている。	把握した状況は、カンファレンスで検討を行い、日々の気づきは、日々解決する努力をしている。計画作成までは二転三転するが、介護記録に記入し、センター方式を用いて、職員全体で関わりがなされていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録を記入し、利用者一人ひとりの健康状態や日々の暮らしの状況を職員全員が共有し、定期的に介護計画の評価・見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や、ご家族の状況の変化及びご本人の状態の変化などにより、随時ご家族との連携をとり対応したサービスを提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ、介護実習生の受け入れを行うほか、近隣の幼稚園との交流も盛んに取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望するかかりつけ医にしている。施設の協力医療機関については、月2回往診していただいているためほとんどの方がかかりつけ医として希望している。協力医療機関の受診については施設職員で対応している。	医療を重視し、看護師を配置している。専門医が必要なかかりつけ医の場合は引き続き受診してもらっている。施設の協力医療機関では月2回の往診があり、多くの利用者がかかりつけ医としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護職員を配置しており、常にかかりつけ医との連携が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した病院に面会に行くとともに、医療機関の相談員との連携が密に取れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向を踏まえた上で、かかりつけ医と相談の上対応するようにしている。	重度化、終末期の対応については、本人家族の意向を常時確認しながら、かかりつけ医や職員と連携をはかりながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より訪問していただき、緊急時の対応などの研修も取り入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施するとともに、運営推進会議を通して地域との連携もとれるよう努めている。	消防署の協力を得て、起震車による地震体験を行った。年2回の避難訓練では、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。	運営推進会議等で地域の方に、防災訓練に参加していただくようお願いされているが、まだ連携した防災訓練はできていない。地道な連携のお願いを継続されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話については敬語で行うようにするとともに、利用者一人ひとりを尊重した対応するよう努めている。	一人ひとりを尊重した言葉使いを行い、職員が問題意識を持ち、意識付けを行い、誇りやプライバシーを損なわないような対応が実施されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出などできる限り本人の意向をく組み入れられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設全体での生活のリズムは決まっているが、その中で利用者一人ひとりの生活を大切にしよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、ご本人でできる方は行っていただき、困難な方は援助するようにしている。理美容については、資格を持った人に本人の希望を聴いて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声かけをし、利用者ができる事は一緒に行うようにしている。メニューについては、バランスを考えた上で本人の希望を取り入れるようにしている。	調理は委託されている。メニューについては、入居者の意見を取り入れている。入居者ができることは一緒に行い、食事の準備や後片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて食事摂取量、排泄の量を計測し健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。必要に応じて協力歯科医院を受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを理解し、声かけ誘導をする事で、トイレでの排泄が増えオムツの使用が減るよう努めている。	居室にはトイレがある。これにより利用者の自ら排せつができるように支援しており、自立で排せつ可能になった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を多くとるよう援助するとともに、排泄チェック表をつけ、必要に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望を取り入れ、平均週3~4回程度入浴されている。	希望に合わせて、昼から夕方まで入浴可能である。 個浴、機械浴など利用者の希望に合わせて入浴支援ができるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、日々状況に合わせて支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医との連携を取るとともに、関連薬局の薬剤師とも相談できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を大切にするとともに、ご本人のできる事を大切に支援を行うように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴天の日はほとんど毎日散歩に行くほか、外食会や、味覚狩りなど外出の機会を多く取り入れるように取り組んでいる。	グループホームの周辺は自然が豊かで、散歩、味覚狩りの外出が実施されている。 交通の危険性もなく、安心して戸外に出かけられ、個別対応が行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望及びご家族の理解のもと、ご本人管理で所持できるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によって電話できるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切にしており、花を飾ったり、行事ごとの飾り付けを行うようにしている。	リビングルームは季節の花や、行事ごとのちぎり絵などが飾られ、季節感を演出している。玄関には、季節の様々な鉢植え、観葉植物が置いてあり心がなごむようにしている。食堂の椅子の脚にテニスボールを利用したカバーを取り付け、滑り防止の配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや談話コーナーにソファを設置しており、他の利用者やご家族と団らんできるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンス、カーテンについては備え付けているが、希望の方は使い慣れたものを自由に持ち込んでいただいている。	居室はきれいに整理され、使い慣れた家具、好みの家具が置いてあり、居心地よく過ごせるように配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用されている方一人ひとりの状況に応じた安全管理を行っている。		

### 目標達成計画

作成日: 平成 22 年 3 月 19 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	非常災害時に備え、地域との連携した防災訓練を実施する必要がある。	①定期的に地域と連携した防災訓練の実施を行う。②非常災害時に備えた、地域との協力関係を確認した協定書を作成する。		12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。